

読書週間の取り組み

読書の秋がやってきました。10月と11月には、33校の小中学校が読書週間（月間・旬間）を計画しています。主な活動を紹介します。

- ・ブックトーク
- ・読み聞かせ
- ・本の木
- ・読書クイズ
- ・読書パズル
- ・読書マラソンやチャレンジ読書
- ・おすすめの本のブックリスト作成や紹介
- ・読書ビンゴ
- ・エプロンシアター
- ・ファミリー読書
- ・ブックメニュー
- ・図書館川柳
- ・本の御宝探し
- ・読書郵便
- ・図書委員会の発表
- ・キャラクターや標語の募集
- ・ゲストティーチャーを呼んでのお話会



児童・生徒が読書に親しみ、豊かな読書生活が送れるよう、いろいろな取り組みがされています。

学習として読書の指導を推進

読書というと、「個人の自由な活動」と考えがちですが、学校教育における読書は、指導しなければならない学習活動の一つとしてとらえる必要があります。その理由は、

- ① 義務教育の目標の一つである（学校教育法）
- ② 新聞や雑誌を読むこと、何かを調べるために部分的に読むことも読書である（文化審議会答申）
- ③ 学習指導要領国語の目標（3）後半に読書の目標が示され、「内容」にも例示されている

などが挙げられます。

近年、朝の一斉読書など、全校で一斉に読書をする時間を設けることにより、児童・生徒の読書量は、増えていますが、さらに、**読書の質を高めるための指導**が必要です。学校教育の一環として、読書の指導を行うことで、児童・生徒個人の自由な読書が向上していきます。

文部科学省の「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」でも、「読書の量を増やすことのみならず、読書の質をも高めていくことが学校に求められる役割であることを踏まえ、学習指導要領等を踏まえた積極的な読書活動の推進に取り組むことが求められる」と記されています。そして、「多様な読書活動を**各教科等の指導計画に位置付ける**ことにより、国語科を中核としつつ、全ての教科等を通じて、児童生徒の発達の段階に応じた体系的な読書指導を推進する」としています。

学校で児童・生徒が学習することはたくさん増え、小学校高学年や中学校になると学校図書館の利用がぐんと減ります。しかし、上記のような学習指導を行うことは、学校図書館の活用が不可欠です。「教えることがいっぱい」の毎日だと思いますが、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善で学校図書館を益々活用するとともに、児童・生徒個人の読書の質を高めるための指導を国語を中心とした各教科等でご指導ください。

教育課程内の読書の時間、指導なしに、好きな本を読んだり借りたりするのは、学習ではありません。「一人で読む」「活字に慣れる」「少し長い話を読む」「1冊を最後まで読み通す」「ノンフィクションなど、テーマを決めて読む」など、目標をしっかりとたせ、継続して指導しましょう。

8月26日に「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」（教育課程部会）が公表されました。以下で、ご覧になれます。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm